

令和6年度・各教科等の授業改善推進プラン（小平第四中学校）

教科	生徒の実態や授業について	授業改善のための具体的な方策
国語	<p>【1年】 ◇多くの生徒が授業に対して主体的に学ぼうとする姿勢が感じられる。ただ、一つ一つの課題に堅実に取り組んでいる生徒と、まだ丁寧な指導が必要な生徒との差はある。そのように、国語の能力や学習習慣に個人差の大きい部分はあるが、相互の話し合い、学び合いを通して、お互いを高め合う姿勢も感じられる。</p> <p>【2年】 ◇多くの生徒が授業に対して主体的に学ぼうとする姿勢が感じられる。また、一つ一つの課題に堅実に取り組んでおり、生徒による授業評価の結果からも理解度・満足度が高いことがうかがえる。国語の能力や学習習慣に個人差の大きい部分はあるが、相互の話し合い、学び合いを通して、お互いを高め合う姿勢が感じられる。</p> <p>【3年】 ◇家庭学習の習慣がおおむね身に付いている生徒が多い。与えられた課題に対しては真面目に取り組むが、自ら考えて主体的に取り組む課題に消極的である。しかし、学級全体で話し合っ理解を深めようとする意欲がある。</p>	<p>【1年】 ◇各単元・教材の学習目標と、学習の過程を明確にすることで、一人一人が見通しをもって学習に取り組めるようにする。また、導入や発問の工夫により、生徒の関心を高めるように努める。特に知識・技能に関わる学習の定着に個人差が大きい傾向が見られるため、学習プリントを工夫し定着を図る。</p> <p>【2年】 ◇スキル教科として、各単元・教材の学習目標と、学習の過程を明確にすることで、一人一人が見通しをもって学習に取り組めるようにする。また、導入や発問の工夫により、生徒の関心を高めるように努める。特に知識・技能に関わる学習の定着に個人差が大きい傾向が見られるため、学習プリントを工夫し定着を図る。また、単元により効果的な学習者用端末の活用を図る。</p> <p>【3年】 ◇義務教育の最終年であるので、基礎的な事柄を総括的に復習する学びの時間を確保していく。また、長文読解に多く時間を活用し、内容的には社会的な課題、世界的な課題、答えのない問いなどを扱い、主体的、多角的、協同的な学びを展開していく。</p>
社会	<p>【1年】 ◇落ち着いた雰囲気、発言も活発である。話し合い活動にも積極的に取り組む生徒が多く、生徒アンケートからも楽しく授業を受けられている様子である。一方で、基本的な知識の習得が不十分な傾向が見られる。</p> <p>【2年】 ◇落ち着いた雰囲気、学習意欲を高くもち授業に取り組んでいる。内容に関する知識を問うことに対しては、正答率が高くなってきた。地名等の漢字が正確に書けない生徒により一層の努力が必要である。個人差はあるが、複数の知識を組み合わせ、地理的・歴史的な見方を活かすことができるようになってきた。</p> <p>【3年】 ◇授業では活発に発言し、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。その一方で、知識の習得をメインとした授業では苦手意識をもつ生徒もいる。</p>	<p>【1年】 ◇授業内で振り返りをしっかりと行い、その時間の確認を確実にやる。基礎基本を習得するための小テストを折を見て実施していく。また、授業アンケート結果の反省から、学習の進捗状況を見て、生徒への個別の声掛けや支援が必要な生徒への対応を充実させる。</p> <p>【2年】 ◇「できるようになった感」をさらに高めさせる必要がある。思考力・判断力を高めるために、授業内で演習を実践するとともに、GoogleForm等を活用して、自分の意見を発信する機会を多くする。引き続き、対話的に問題に（対話的な問題を？）取り組ませ、互いの考えを確認しながら、地理的・歴史的な見方を活用できるような問題演習をしていく。</p> <p>【3年】 ◇授業のめあてに対し、疑問を投げかけ思考する。その考えを自身の言葉で表現することを繰り返すことで思考力・表現力の定着を図る。生徒同士で意見交換をする機会を作ることで互いに学び合い、意欲的に授業に取り組めるように進めていく。個別に支援が必要な生徒に対し、授業内での声掛けや課題提出後の補足を増やしていく。</p>
数学	<p>【1年】 ◇発言しようと手を挙げる生徒が多く、意欲的に取り組もうとする生徒が多い。その一方で、数学に苦手意識をもつ生徒がおり、知識、技能が定着していないことが考えられる。</p> <p>【2年】 ◇落ち着いた授業を受けられている。 ◇毎時復習プリントを実施して、既習事項の確認と定着を図っている。</p> <p>【3年】 ◇落ち着いた授業に取り組んでいる。 ◇全国学力調査の値も全国・都と比べておおむねよい結果が出ている。3年生ということもあり、積極的に学習に取り組んでいる生徒が多い。思考・判断・表現の部分が苦手な生徒が少し多い。</p>	<p>【1年】 ◇生徒アンケートでは、板書やモニター等を使用した授業の実践の項目で他項目と比べて低い傾向が見られた。また、自由記述では、話し合い活動をもっと活発に取り入れてほしいという意見も見られた。このことから、ノートを取りやすい板書計画を立てる。視覚による理解が深まる場面では、積極的にICTを活用する。説明し合う、お互いに教え合うような時間を意識的に確保する。の3点を改善する。</p> <p>【2年】 ◇習熟度別少人数授業の形態を生かし、生徒の習熟状況に応じたステップで学習できるよう指導する。 ◇解説等のデジタル配信（プリントなど）をして、家庭で学習の支援をしていく。</p> <p>【3年】 ◇授業開始時における計算演習の徹底を図ることで、基礎学力の定着を図る。習熟度別少人数授業の形態を生かし、生徒の習熟状況に応じたステップで学習できるよう指導する。テスト前に自習教室を開いていく。</p>

理科	<p>【1年】          ◇科学に対する興味・関心は全体的に高く、積極的に実験や観察に取り組んでいる。また、発言も多い。ただし、結果から分かることをまとめる考察の内容を充実させていくことは課題がある。ノートの書き方についても、上手にまとめられている生徒と、丁寧な指導が必要な生徒がいる。</p> <p>【2年】          ◇科学に対する興味・関心は全体的に高く、積極的に授業に参加し、実験に取り組んでいる。問いかけに対する反応はよく、意見の発表もおおむね積極的である。ノートに各自で主体的にまとめる自主学習のページが、生徒によって差が大きいものの、全体的に充実してきている。</p> <p>【3年】          ◇科学に対する興味・関心は全体的に高く、積極的に実験や観察に取り組んでいる。しかし、レポートに目を通すと、気が付いたことや自分の考えを文章にして表現するのが苦手な生徒も多い。授業中、集中して話を聴き、メモをとるなどの工夫をする生徒が少しずつ増えてきている。</p>	<p>【1年】          ◇毎時の目的に対するまとめについて、時間を十分に確保し、書くだけでなく発表までできるようにしていく。実験・観察については、まとめの段階でしっかり振り返りができるように、学習者用端末で写真や動画に残させる。また考察については、「みんなで話し合ってみよう」「段階を追ってまとめられるような記入式のプリントを作成してまとめる」「結果からわかることを自分だけの力でまとめる」のように段階を得て身に付けられるようにしていく。</p> <p>【2年】          ◇実験・観察は、全員が役割をもって取り組めるように工夫すると共に、学習者用端末で写真、動画を記録するなど、振り返りも行える手段を充実させる。学習者用端末を積極的に活用し、自分の興味のあるところから学習したり、調べたり、まとめたりする活動を通して主体的に学ぶ姿勢を育む。個別の発言・発表の時間を増やし、自分の言葉で表現する資質・能力を伸ばす。</p> <p>【3年】          ◇実験などは、できるだけ少人数グループで取り組めるように準備し、さらに興味・関心を深めていくようにする。1学期は学習者用端末のロイロノートを用いて化学変化をイオンで表現する活動の機会をつくったが、その他にも調べ学習等で使用していきたい。また、調べたこと、理解したことを簡易的なスライドにして発表することを通して、理解を深めたい。</p>
英語	<p>【1年】          ◇英語を学ぶことに対し、興味関心が高く、意欲的に授業に取り組んでいる。歌、音読、カードによる活動に積極的に取り組み、楽しみながら英語を身に付けようとしている。ペア活動を通して、協力し合い、英語力を伸ばしていこうとする姿勢が感じられる。一方で英文を書くことに対して、苦手意識をもった生徒が多く、今後は書く活動を充実させていくことが必要である。</p> <p>【2年】          ◇英語を学ぶことに対して意欲的な生徒が多く、歌や音読、暗唱などの活動に積極的に取り組んでいる。ペア活動を通して、お互いに助け合いながらコミュニケーションの中で英語を学ぶことができている。書くことに対しての抵抗が少なく、多くの英文を書きながら少しずつ使用できる表現が増えている。一方、英文を書く時のミスが多く、論理的な構成を意識した文章を書くことに関して課題が残る。</p> <p>【3年】          ◇メリハリを付けて授業を受けている。帯活動の歌が大好きで積極的に歌う。ペア活動をスムーズに取り組める。生徒の力の差が出てきている。長文読解は課題があり、英単語の習得に意欲的に取り組む必要がある。</p>	<p>【1年】          ◇音読活動の充実を図る。発音指導に力を入れ、音読、暗唱した英文をノートに書かせることで、書ける英文の量を増やしていく。          ◇学期に一度スピーチを行う。原稿の添削指導や暗唱した英文を書く活動を通して、書く力の向上を図る。</p> <p>【2年】          ◇日記や、エッセイ、スピーチやプレゼンテーションの原稿など様々な形式のライティングを通して、文章の構成を意識した英文を書く。また接続副詞を文章に取り入れることで、生徒が順説や逆説を考えながら英文を書く。</p> <p>【3年】          ◇帯活動に読む活動を3分毎取り入れている。また、授業ではペア活動を積極的に取り入れコミュニケーションを主体的にするよう促している。英単語はゲーム活動を取り入れ親しみをもたせ、何回も繰り返す。</p>
音楽	<p>【1年】          ◇どのクラスも熱心に授業に取り組んでいる。生徒の発言に偏りが出ないようにすることが課題である。合唱では元気に発声をしているが、地声での発声を成長させる。また、テノールの声が大きくソプラノ・アルトとのバランスが課題である。</p> <p>【2年】          ◇各々歌唱に対する思いに違いがある中で、特に合唱では、歌唱時のクラス全体の雰囲気によっても良い方向へ進む速さに差がある。女声の発声が薄い傾向がある。男声は声量があるクラスが多い。その一方で音取りは繰り返し指導が必要である。鑑賞では、聞き取ったことと感じ取ったこととのつながりを文章表現することに、丁寧な指導が必要である。</p> <p>【3年】          ◇落ち着いた授業を受けている。簡単な問いかけには答えられるが、思考が必要な問いや音楽の曲想を答えるられる力に課題がある。合唱では、積極的にようになってきたが、女声の発声が薄い。また、男声は発声が困難な場所や音取りが難しい場所を成長させる。</p>	<p>【1年】          ◇発言に関してはこちらから指名したり、ふくらましたりすることによって発言への抵抗感をなくす。合唱ではバランスを考え、パートとしての役割を伝えていく。また、変声期があることを理解させ、無理のない発声を心掛けさせる。</p> <p>【2年】          ◇歌唱では、声の変化を感じやすい発声練習等を行う。また、アンサンブルする感覚(聞きながら歌う感覚)を得られるよう指導する。それらを生徒同士でコミュニケーションを取りながら確認し合うなど、気付きと楽しさを感じられるよう指導する。鑑賞では、聞き取ったことと感じ取ったこととのつながりや、着目したい点について、生徒間やクラス全体でのやりとりを通じて一緒に理解を深める。</p> <p>【3年】          ◇他人とコミュニケーションを取りながら、音楽のよさについて語る時間を増やす。合唱では、変声期後の発声について改めて伝え、より良い声を出すよう指導する。発声練習では各クラスの曲に沿ったメニューを行う。</p>

美術	<p>【1年】 ◇落ち着いた雰囲気、発言も活発である。実技課題にも積極的に取り組む生徒が多く、楽しく授業を受けている。一方で、基本的な知識・技能の習得に差がある傾向が見られる。</p> <p>【2年】 ◇班活動での授業準備、片付けなど協力して行える。実技課題では基礎的技能、制作意欲に差があるため、個別指導が必要である。計画的に制作に取り組む意識をもたせたい。</p> <p>【3年】 ◇落ち着いた授業態度で、与えられた課題にまじめに取り組む姿勢がみられる。一方、主体的に課題を見出し取り組むことには消極的である。少しずつではあるが、作品の制作を通して自らの考えを文章で表現できるようになってきた。</p>	<p>【1年】 ◆進度に合わせた課題、基礎的な知識を確認できる掲示物を準備することで個々への対応ができるようにする。話し合い活動、発言、発表の機会を増やす。</p> <p>【2年】 ◆実技の技能、課題制作に対する意欲に差があるので、個別指導のための学習補助員の協力を得ることが必要である。各自の毎時間の制作目標を授業の初めに確認させる。</p> <p>【3年】 ◆制作を通して何を表現したいのか、何を学ぶのかを意識させたい。基礎的技能の習得と、主題の設定に関して視野を広げるような資料の準備をする。話し合い活動、発言、発表の機会を作る。</p>
保健体育	<p>【1年】 ◇どのクラスも主体的に学習に取り組んでおり、男女共習は小学校で経験しているので違和感なく活発に取り組んでいる。一方で、運動能力や小学校での習熟度に差がある。</p> <p>【2年】 ◇得意・不得意に関わらず、運動に対して前向きに取り組める生徒は多い。また、互いに聞いたり教え合ったりすることもでき、体力・運動能力の向上のために意欲的に取り組むことができる。一方で、集団で高め合うことにはやや課題がある。</p> <p>【3年】 ◇自分の課題やチームの課題を把握し、目的をもって課題に応じた練習に取り組むことができている一方で、その改善策について言葉や文字で具体的に、かつ根拠に基づいた説明をすることに課題がある。</p>	<p>【1年】 ◇基本的な知識や技能を伝えて、それらをグループで考えながら習得や技術の向上を図る。</p> <p>【2年】 ◇グループ内での体力・運動能力向上に向けて互いに高め合えるよう、小グループ学習を取り入れる。また、単元の「始め」「中」「終わり」に試合形式や測定を取り入れることで、技能の定着度を実感させ、内発的動機付けの向上を図る。</p> <p>【3年】 ◇その運動や動きができないのはどのような点に問題があり、どのように改善すればよいかを多角的に考えさせ、意見交換をさせるなど、授業内で課題を改善させるための方策を言葉で説明する機会を設ける。</p>
技術・家庭科	<p>【1年】 ◇どのクラスも積極的に発言があり前向きに取り組む生徒が多い。グループ活動でも意見を出し合い理解を深めようとしている。課題に対し一人で考える時間では、丁寧な指導が必要である。</p> <p>【2年】 ◇授業、実習に対して前向きな生徒が多い。実習では、手縫いやミシンの基礎技能定着に課題がある。毎時間の目標を設定し、計画的に作業に取り組む必要がある。</p> <p>【3年】 ◇授業の課題に対しても前向きに取り組む生徒が多い。自分の考えを述べたり、自ら計画することに課題がある。</p>	<p>【1年】 ◇グループ活動を継続的に取り入れ、どの生徒も自分の意見をもてるように授業展開を工夫する。授業の振り返りを毎時間行い、授業の定着を目指す。</p> <p>【2年】 ◇授業内容を明確に示し、授業終了時の到達度を各自で振り返りをさせる。実習では、学習補助員の協力も得ながら、基礎技能定着を目指す。</p> <p>【3年】 ◇小集団の中での意見交換の場を増やす。計画では、模範となる生徒の作品を紹介しイメージをわかりやすくし、目的を明確にして課題に取り組めるように支援する。</p>
道徳	<p style="text-align: center;">生徒の実態や授業について</p> <p>◇各学年、生徒の実態に応じた授業ができている。授業の雰囲気づくり、ワークシートや発問の工夫、話し合い活動、役割演技など、多様な意見が出るような指導の工夫を教員の共通理解として進めている。生徒たちの道徳の授業に対する向き合い方、取り組み方も徐々に関心が高まり、自らの生き方を考え、物事の見方を深めることができている。その一方で、道徳の取り組みに対する興味・関心には生徒の個人差があり、発言する生徒が限定的になってしまう傾向にあることが課題である。</p>	<p style="text-align: center;">授業改善のための具体的な方策</p> <p>◇自分の考えや意見を表現する場面の工夫が必要と考え、ロイロノートなどICTの活用、話し合い活動の充実を通して、一人一人が考えたことを発表したり、小グループでの他者との意見交流や共有したりする場面を設定する。引き続き、学年内でローテーション道徳を実施し、組織的な道徳教育の推進を図る。</p>